

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果について

豊後大野市教育委員会

1 各学年の状況 (1) <小学校6年生>

① 平均正答率

調査学年	小学6年生			
教科及び 問題	国語		算数	
	A問題 (15問)	B問題 (10問)	A問題 (16問)	B問題 (13問)
豊後大野市	71.9	55.5	75.1	45.8
()内は全国比	(-1)	(-2.3)	(-2.5)	(-1.4)
昨年度の全国比	(-0.8)	(-1.3)	(-1.1)	(-3.0)
大分県	72.7	58.2	77.9	46.7
全 国	72.9	57.8	77.6	47.2

② 学習指導要領の領域別正答率

	領域	A問題			B問題		
		市	県	全国	市	県	全国
国 語	話すこと・聞くこと	79.9 (+0.6)	80.7	79.3	50.7 (-0.4)	51.0	51.1
	書くこと	66.1 (-6.7)	72.0	72.8	51.5 (-1.9)	54.3	53.4
	読むこと	76.3 (-2.2)	79.0	78.5	67.4 (-1.9)	70.3	69.3
	伝統的な言語文化と国語に関する事項	71.4 (+0.3)	70.8	71.1			
算 数	数と計算	78.9 (-1.6)	81.3	80.5	42.0 (-2.4)	43.7	44.4
	量と測定	74.3 (-2.7)	77.3	77.0	43.1 (-0.6)	43.5	43.7
	図形	77.0 (-1.8)	79.1	78.8	35.3 (-1)	35.9	36.3
	数量関係	61.3 (-7.2)	67.2	68.5	41.7 (-1.2)	42.6	42.9

③ 設問別調査結果と無回答率について

	設問別調査結果 ()は全国比	無回答率の高い問題 ()は無回答率
国語A	○漢字を書いたり、読んだりする問題 (+2.1 読む) ▲目的や意図に応じて、 <u>書く事柄を整理</u> する問題 (-8.5)	○ローマ字を書く (15.0 %) りんご・あさって ○ローマ字を読む (19.7 %) hyaku
国語B	○話し手の意図を捉えながら聞き、話の 展開に沿って質問する問題 (+1.1) ▲目的に応じて、複数の本や文章などを 選んで読む問題 (-7.9)	○文章の内容を的確に押さえ、自分の考 えを明確にしながらか読み、 <u>紹介したい内容</u> <u>をまとめて書く問題</u> (12.4 %)
算数A	○小数の加法の計算、約分、不等号の 理解の問題 (+7.9) ▲全体の大きさに対する部分の大きさを 表す問題 (-10.2) ▲場面を適切に読みとり、全体の人数を 求める式に表す問題(-5.7) ▲基準量と比較量の関係を整理する問 題 (-5.6)	○全体的に無回答率は低い
算数B	○グラフから読みとったことを根拠に示さ れた事柄が正しくない理由を記述する問 題 (+1.5) ▲示された式に数値を当てはめて、目標 タイムを求めることができる(-5.8)	○正答率も低く(6、2)無回答率が高い (23.4%)問題 示された除法の式を並べてできた形と関 連付け、角の大きさを基に <u>式の意味の説</u> <u>明する問題。</u>

(2) <中学3年生>

①平均正答率

調査学年	中学校3年生			
	国語		数学	
	A問題 (33問)	B問題 (9問)	A問題 (36問)	B問題 (15問)
豊後大野市 ()内は全国比	76.3 (+0.7)	69.4 (+2.9)	59.6 (-2.6)	40.3 (-3.8)
昨年度の全国比	(-2.5)	(-0.6)	(-4.2)	(-6.2)
大分県	74.7	66.2	60.9	42.1
全 国	75.6	66.5	62.2	44.1

② 学習指導要領の領域別正答率

()内は全国比

	領域	A問題			B問題		
		市	県	全国	市	県	全国
国 語	話すこと・聞くこと	80.3 (+1.4)	77.9	78.9			
	書くこと	74.5 (+0.8)	73.2	73.7	64.2 (+5.9)	58.2	58.3
	読むこと	79.2 (+0.6)	76.9	78.6	69.4 (+2.9)	66.2	66.5
	伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項	74.3 (+0.4)	73.2	73.9			
数 学	数と式	63.8 (-2.1)	65.3	65.9	47.3 (-4.2)	49.3	51.5
	図形	65.0 (-2.1)	65.9	67.1	27.2 (-6.1)	27.3	33.3
	関数	47.1 (-4.9)	50.0	52.0	38.7 (-2.7)	41.2	41.4
	資料の活用	55.6 (-0.9)	54.8	56.5	36.4 (-2.9)	37.7	39.3

③ 設問別調査結果と無回答率について

	設問別調査結果 ()は全国比	無回答率の高かった設問 ()は無回答率
国語A	○ほとんどの設問において全国平均を上回っている ○文の成分の照応についての問題 (+7.6) ▲漢字の読み(-9.9)書き(-9)	○無回答率は全体的に低い
国語B	○ほとんどの問いで全国平均を上回っている ○文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く問題 (+6.3)	○無回答率は全国に比べると全て低い ○本や文章などから必要な情報を読みとり根拠を明確にして自分の考えを書く問題 (12.7%)
数学A	○具体的な場面における数量関係を捉え、比例式をつくる問題 (+18) ▲自然数の意味を理解しているかの問題 (-20.7) ▲比例の式で x の値の増加に伴う y の増加量を求める問題 (-11.8)	○全体的に無回答率は全国より低い ○一次関数について変化の割合が一定で a の値に等しいことを理解しているかの問題 (19.5%)
数学B	○与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する問題 (+5.4) ▲筋道をたてて証明する問題 (-9.5) ▲適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を <u>数学的な表現を用いて説明する問題</u> (-8.3)	○全国と比べると無回答率は低い ○与えられた式を用いて、問題を解決する方法を <u>数学的に説明する問題</u> (32.9%) ○付加された条件の下で、新たな事柄を見いだし <u>説明する問題</u> (23.6%)

2 結果分析

小学校

国語

- 平均正答率では、昨年度と比べると若干全国との差がひらいている。(A、Bとも)
- 国語Aでは、1.5問中7問以下の正答率が15%、国語Bでは、1.0問中4問以下の正答率が34.7%といわゆる低学力にあたる層が多い。
- 領域別では「話すこと・聞くこと」は全国正答率を上回ったが、「書くこと」には課題がある。
- 条件を満たした作文を書くことに課題がある。

算数

- 平均正答率は全国には及ばないが、その差は縮めてきている。特にB問題は昨年度は-3ポイント、今年度は-1.4ポイント。
- いわゆる低学力層が多い。B問題においては、半数以上が1.3問中6問以下の正答であった。
- A問題の「数量関係」に関する問題が全国との差が大きく、課題がある。

中学校

国語

- A・B両問題において平均正答率が全国を上回った。領域別にみても全ての項目で、全国を上回っている。
- 無回答率も全国に比べると低く、いわゆる低学力層も少ない。
- 中学校国語部会における、問題解決的な学習展開の継続した取組の成果が、結果に現れていると考えられる。
- A問題における漢字の読み・書きに関する問題が全国との差が大きく、基本的な事項の定着に課題がある。

算数

- A・B両問題において全国平均を達成することはできなかった。しかし、前年度と比べると、全国との差は縮んできている。
A問題 -4.2が-2.6に B問題 -6.2が-3.8に
- A問題においては関数、B問題においては図形に関する問いが全国平均との差が大きい。
- いわゆる低学力層にあたる生徒が多い。
- A・B問題とも説明する問題に課題がある。

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果

(児童・生徒質問紙 学校質問紙)

○家庭学習に関わる項目 (児童・生徒質問紙)

1日あたりの勉強時間 (%)	3時間 以上	2～3 時間	1～2 時間	30分～ 1時間	30分より 少ない	しない
小6 市	2.9	11.9	36.8	33.2	11.5	3.6
全国	10.8	14.7	37.0	25.4	8.9	3.0
中3 市	11.0	39.4	32.9	11.8	2.8	2.0
全国	9.4	24.3	33.7	17.7	8.9	5.5

休みの日の勉強時間 (%)	4時間 以上	3～4 時間	2～3 時間	1～2 時間	1時間より 少ない	しない
小6 市	2.2	2.5	11.9	37.9	35.4	10.1
全国	6.7	5.0	12.5	32.8	32.8	10.2
中3 市	6.9	23.2	36.2	25.2	6.9	1.6
全国	5.1	11.5	23.5	27.7	21.0	11.0

豊後大野市では、家庭学習定着率100%を目指しているが、家庭学習をしないと回答している子どもたちがいる状況である。

○問題解決的な学習展開に関する項目 (児童・生徒質問紙)

(最も肯定的な回答をした割合)

	課題に対し て自ら取り 組む	発表の機 会がある	話し合う 活動をして きた	課題解決 に向けての 取組をした	最後まで 聞く、しっか り話す	伝わるよう 工夫して発 表
小6 市	20.9	49.1	39.7	28.5	29.2	17.0
全国	30.7	53.2	45.2	29.4	33.4	24.0
中3 市	30.1	47.6	48.8	26.8	29.7	17.1
全国	27.4	43.5	34.9	22.3	25.4	17.0

各校で、「新大分スタンダード」での授業改善を進めている。中学校では、全ての項目において、全国平均を上回る回答であった。中学校における授業改善も進んできていると考えられる。今後も継続していく必要がある。

○問題解決的な学習に関わる項目（学校質問紙）

（最も肯定的な回答をした割合）

	問題解決的な流れの学習活動を取り入れる	本やインターネットなどの資料の調べ方の指導	資料を使って発表できる指導	調べたことを文章に書く	学級全体で取組・挑戦する課題を与える
小6 市	9.1	27.3	18.2	27.3	45.5
全国	20.2	30.6	27.9	29.9	33.7
中3 市	42.9	42.9	42.9	42.9	57.1
全国	15.8	21.4	21.2	24.5	29.8

学校質問紙をみても、中学校では各項目について5割近い学校が最も肯定的な回答をしている。全国平均と比べてみても市内の中学校がいずれの項目においても大きく全国値を上回っている。問題解決的な学習活動の取組については、小学校が大きく落ち込んでおり、課題がみられる。

○「新大分スタンダード」に関する項目（児童・生徒質問紙 学校質問紙）

（最も肯定的な回答をした割合）

	児童質問紙 (小6)	学校質問紙 (小学校)	生徒質問紙 (中3)	学校質問紙 (中学校)
めあて・ねらい	51.3	10校(90.9)	61.8	3校(42.9)
振り返る活動	38.6	8校(72.7)	34.1	3校(42.9)
ノートにめあて・ねらい	70.7	6校(54.5)	63.8	3校(42.9)

「めあて」や「ねらい」の提示や「学習のふりかえり」については、児童・生徒と教師の間でずれがみられる。児童や生徒の立場での「めあて」「ねらい」「ふりかえり」にしていく必要がある。

今後の とりくみ

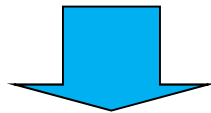
1 UDのよさを取り入れた授業展開

「聞いて理解する授業」から「考えて理解する授業」へ

焦点化・・・目標・発問・評価規準の絞り込み

視覚化・・・ことば・内容・授業展開・理論の見える化

共有化・・・効果的なペア・グループトーク等による深く考える場の設定



「問題解決型の授業展開」「生徒指導の三機能」「学びに向かう力」

2 授業の質の向上

基礎・基本の力をいかした 思考力・判断力・表現力の向上

課題の質の向上

課題とまとめ めあてとふりかえりの 位置付いた授業の工夫

目的をもった対話的な学びや思考の場の設定（深く考える場）

3 保護者との連携

生活スケジュール表の作成

「家庭学習のてびき」を活用した 宿題定着率 100%

4 目標・取組の共有と徹底

自校の実態に即した取組の共有と推進

「新大分スタンダード」の更なる徹底